

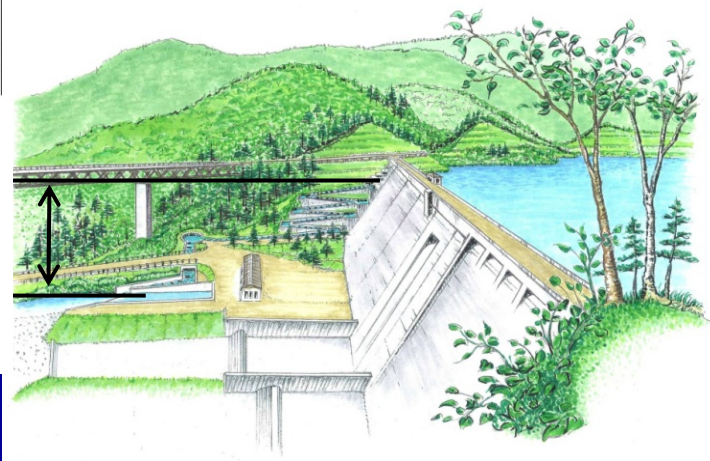
(3) サクラマス幼魚(スモルト)の降下対策について

- 1) サクラマス幼魚(スモルト)を集め、湖岸沿いのバイパス水路に誘導し、ダム堤体の魚道から降下させるための環境条件(水量の確保、水路の構造と保全管理等)を確保できるのかどうか。

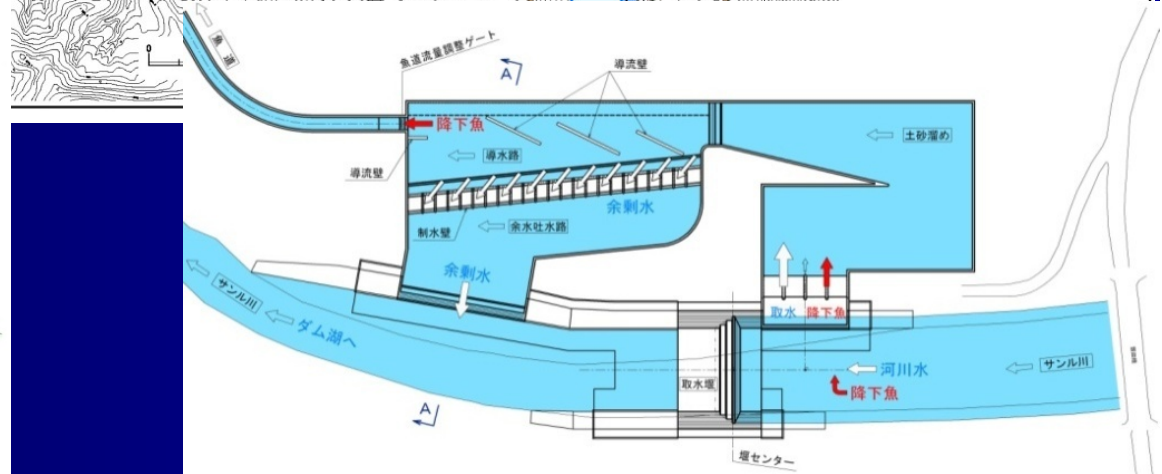
(3)-1) 魚類対策の環境条件について①



魚道落差約 29 m



プール式台形断面魚道(堤体部)



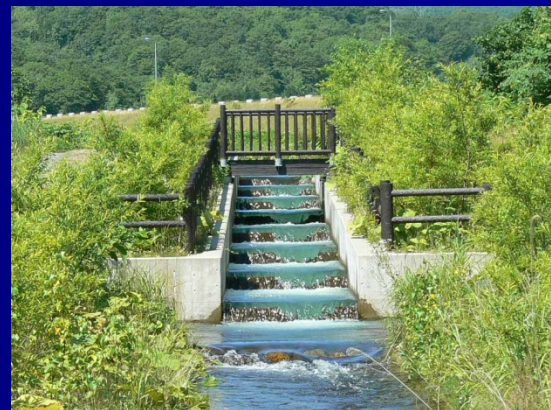
スクリーンによる分水施設

(3)-1) 魚類対策の環境条件について②

●美利河ダムの魚道事例



多自然魚道



階段式魚道

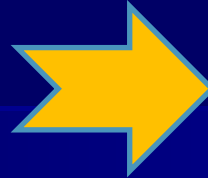
(3) サクラマス幼魚(スマルト)の降下対策について

2) ダムの湛水域の上流部に設置される分水施設と迷入防止施設(スクリーン方式)の出水時における耐久性と運用管理を的確に実施できるのかどうか。

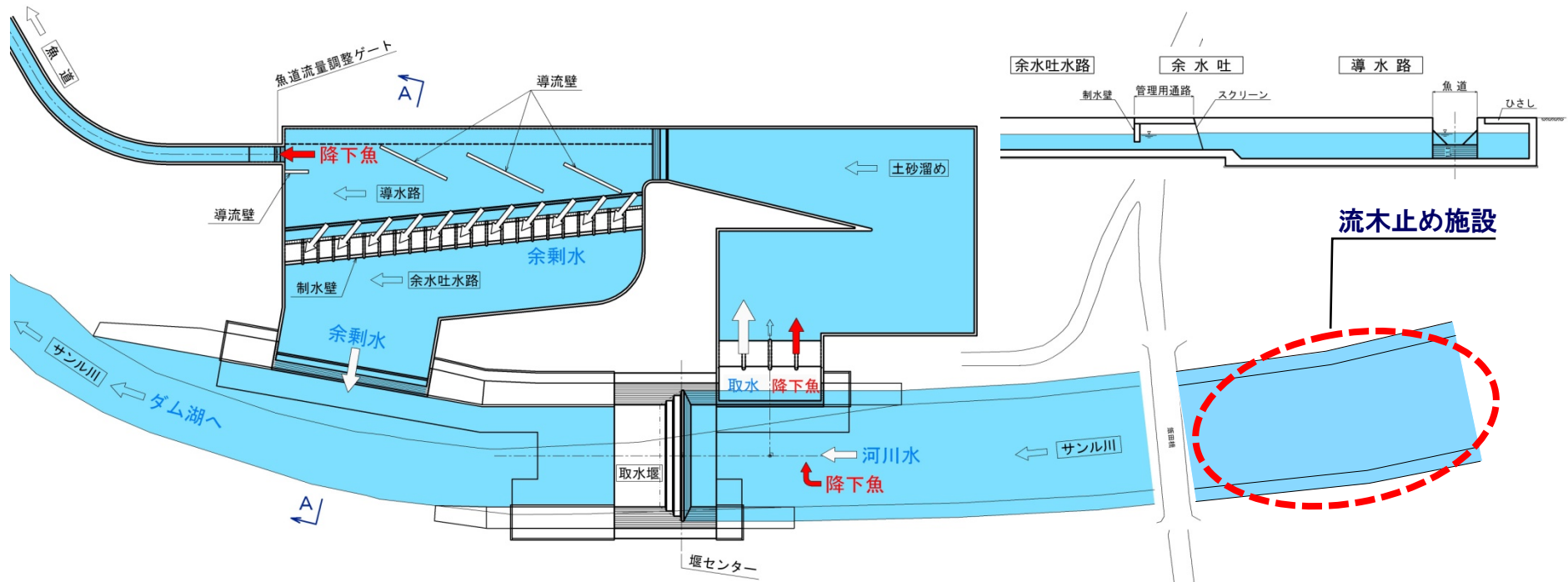
(3)-2) 分水施設の耐久性と運用管理について



安田委員による水理実験①



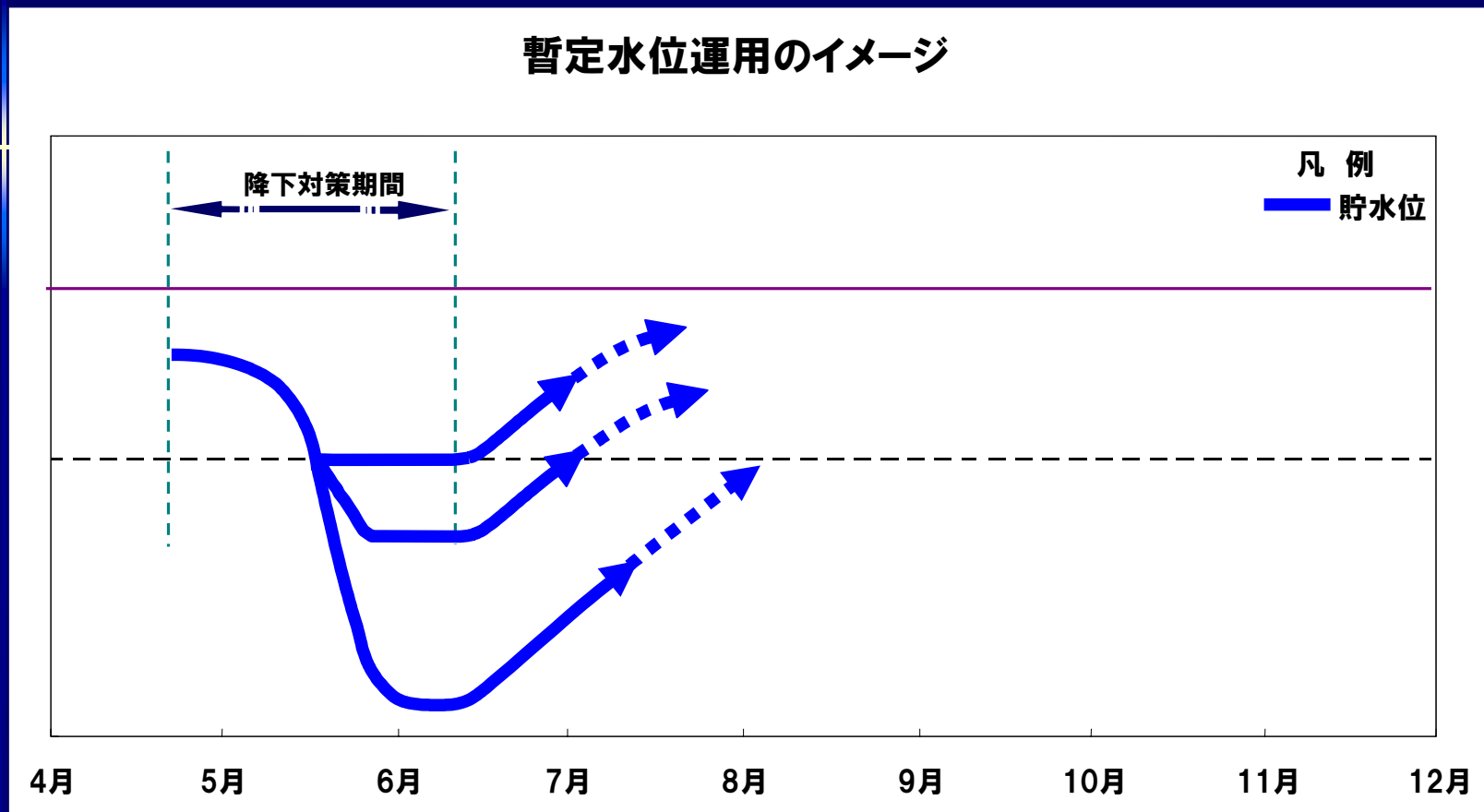
安田委員による水理実験②



(4) バイパス方式によるサクラマス親魚の遡上とサクラマス幼魚の降下の確認ができるまでの間は、降下時期にダムを水位を下げる運用「暫定水位運用」を実施するとしているが、ダムに求められている機能(発電、上水道、農業用水の供給等)との調整をどのようにするのかについて、その見解を示されたい。

(4) 暫定水位運用について

暫定水位運用の期間に、恒久的対策の効果モニタリングします。



その結果必要な場合には追加対策等を行った上で、恒久的対策の効果把握されれば、サンルダムは所定の目的のための通常の運用を行うこととなります。
また、このような水位運用を行っている間は、利水者の協力を得る必要があります。